

男女ともに7年ぶり！  
女子・日本女子大学、男子・  
東北大学がインカレ優勝を  
果たした。

日本学生オリエンテーリング選手権大会  
リレー競技 2005年3月13日(日)  
栃木県日光市 今市市

## 男子東北大学！歓喜爆発！

東北大学のアンカー鉾立が宙に舞う。  
続いて2走の後藤、そして1走の小林  
が宙に舞う。優勝を決めた直後の東北  
大部員はその喜びを爆発させていた。

7年ぶりの優勝。インカレ男子の上位  
の常連さんとして、東北大学はいつも  
その強さを見せ付けていた。しかしい  
まひとつ勝ちに恵まれなかった。

「え？東北大学6年間も勝っていな  
かったの？」と思われるほどだ。そう  
それほど「勝つ」のは難しいというこ  
となのだろう。

インカレ男子リレーは今までずっと  
4人で行われてきた。それが今回から3  
人リレーへと移行した。東北大学男子  
は、その新ルール下で最初の栄冠を勝  
ち取った。

従来の4人制だと、4人が平均的なレ  
ースを行うことが重要だったが、3名制  
ではひとりあたりがレースに寄与する  
度合いが大きい。そこで強いエースが  
いる大学が有利であると予想されてい  
た。

しかし東北大学は3名ともきれいに  
46分代のタイムを刻み、結果的に2位  
に1分強の差をつけて優勝した。まさ  
にチームの力で獲った金メダルだ。



仲間に胴上げされる後藤(東北大学)



東北大学のウイニングラン(鉾立裕樹/後藤大輔/小林恭輔)

2位は筑波大学。秋のインカレロング  
で優勝し、前日のミドル競技でも2位  
になっているアンカーの坂本が驚異的  
な追い上げを見せる。3走チェンジオー  
バーまで入賞圏外の7位だった筑波大  
学の順位を一気に引き上げたが、東北  
大学には及ばなかった。しかし2位で  
ある。3人制リレーを最も効果的に使っ  
て結果を残したのは筑波大学だったと  
いえるだろう。

3位はじわりじわりと順位を上げて  
きた京都大学がその実力を見せた。

4位から6位はアンカー勝負がもつ  
れにもつれたが、フィニッシュレーン  
に飛び込んだ順で順位を分けた。4位早  
稲田、5位金沢、6位東京農工である。

### インカレ2004 リレー男子結果

- |                  |         |
|------------------|---------|
| 1 東北大学           | 2:19:14 |
| (小林恭輔 後藤大輔 鉾立裕樹) |         |
| 2 筑波大学           | 2:20:29 |
| 3 京都大学           | 2:23:31 |
| 4 早稲田大学          | 2:29:59 |
| 5 金沢大学           | 2:30:00 |
| 6 東京農工大学         | 2:30:08 |

## 感涙！日本女子大学

アンカー橋本陽子の目から涙がこぼ  
れ落ちた。メンバーが抱き合った。す  
べての緊張から開放された至福の時だ  
った。



日本女子大学のレース展開は他を圧  
倒した。1走・朴峠周子がいきなりトッ  
プで会場に現われ、その後2走・石山  
佳代子もトップを死守。背後に他校の  
気配を感じながら相当なプレッシャー  
の中一人でレースを引っ張る展開に。

キレそうな緊張感にも負けずアンカ  
ーの橋本陽子も逃げ切りを決めた。ウ  
イニングランの時も決してペースを緩  
めず、フィニッシュラインを少しでも





ウイニングランも全力で走る日本女子大学

早く切っておきたいという気持ちが伝わってくるようだった。

優勝決定直後のインタビューが終わって緊張の糸が緩んだ。感激と涙が一気に溢れてきた。

しかし彼女たちと応援する早大OCのメンバーは胸上げもなく、驕ることもなかった。男子リレーで今まさに早大OCメンバーが入賞をかけて最後の争いを演じているところだったのだ。

2位は東京農工大学。男子ともども入賞を果たした農工大学にはパワーを感じる。昨年3位、今年2位・・・とくれば来年は優勝を狙うしかない。

3位は奈良女子大学。徐々に順位を上

げ、昨日のミドル競技で2位になったアンカー森澤寿理で一気に3位に食い込んだ。

4位は宮城学院女子大学。取り立てて速いラップを刻んだ選手はいないが、全員の力が揃えばここまで食い込めるのだ。

5位から8位は秒差の勝負となった。この中でも東京女子大学は昨日ミドル優勝の原直子をアンカーに起用し、混沌の争いを振り切って5位に輝いた。ラップも全選手の中で唯一40分を切り、力を見せた。

6位は昨年優勝の千葉大学。レース序盤から上位を走るが、チェンジオーバ

ーのたびに順位をひとつづつ落としてきた。しかしギリギリ入賞に踏みとどまった。

7位金沢大学、8位早稲田大学はこの秒差の5位争いを制することができなかった。この悔しさはきっと来年への大きなバネとなるだろう。この5位争いの選手の姿、応援するチームの姿は見ている者も熱くした。

#### インカレ2004 リレー女子結果

- |                   |         |
|-------------------|---------|
| 1 日本女子大学          | 2:14:57 |
| (朴峠周子 石山佳代子 橋本陽子) |         |
| 2 東京農工大学          | 2:25:21 |
| 3 奈良女子大学          | 2:29:39 |
| 4 宮城学院女子大学        | 2:30:52 |
| 5 東京女子大学          | 2:33:39 |
| 6 千葉大学            | 2:33:54 |

### 筑波女子再起なるか？

今までのインカレで当然のように続いていた筑波大学女子の連続入賞記録が今回のインカレで途絶えた。今回の筑波女子は12位。

実は筑波大学女子は第1回のインカレ以来、26年間にわたってずっと入賞を続けていた。26年といえば一世代の違いがある。今インカレを走っている世代は最初のインカレ世代の子供世代だ。ここでもひとつの時代が終わったかのように見える。

いや、終わってはいない。女子一般クラスでは筑波大学が新人だけで構成されたチームが5位に入っている。しかも全員が安定したタイムを刻んでいる。これに上級生が触発されないわけにはいかないだろう。

男子一般クラスでも筑波大学の新人だけで構成されたチームが7位に食い込んでいる。同じく8位に食い込んだ東京大学と並んで、次の世代も男子筑波・東京大学の活躍が期待できそうだ。

(木村佳司)



応援のチカラを感じる。それがインカレだ。